

「医療経済学会 第15回 研究大会」 開催報告

2020年9月5日(土)に井伊 雅子 氏(一橋大学 国際・公共政策大学院 教授)を大会長として「医療経済学会 第15回 研究大会(一橋大学共催)」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の流行と政府、東京都の対応を考慮して、初のオンライン形式での開催となりましたが、127人の皆様にご参加をいただき、盛会裏に終了致しました。

一般演題は2会場に分かれ、11演題の発表がなされました。それぞれの演題で通常開催と遜色のない活発な議論が行われました。「第14回 若手研究者育成のためのセミナー」も同時に開催され、若手研究者からの発表とコメンテーターから実践的なアドバイスを提供する機会も設けられました。

基調講演・シンポジウムおよび特別セッション

ンでは登壇者の皆様に一橋講堂に参集いただき、オンライン中継を実施いたしました。基調講演・シンポジウムでは、「予防と健康増進：エビデンスに基づく政策形成のあり方」という題目で、津田塾大学 総合政策学部 教授 伊藤 由希子 氏の司会の下、5名のパネリストの皆様(江崎 禎英 氏(内閣府大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)、遠藤 久夫 氏(学習院大学 経済学部 教授)、翁 百合 氏(日本総合研究所 理事長)、草場 鉄周 氏(日本プライマリ・ケア連合学会 理事長)、近藤 尚己 氏(京都大学大学院医学研究科教授))にそれぞれの視点から予防と健康増進に関する現状と課題について講演いただき、その後活発なディスカッションが行われました。



特別セッションは「保健医療費統計の課題」という題目で、司会の慶應義塾大学 名誉教授池上直己氏と3名のシンポジストの皆様(岩本 康志氏(東京大学大学院 経済学研究科教授)、小峰 隆夫氏(大正大学 地域構想研究所 教授)、満武 巨裕氏(医療経済研究機構 研究副部長))にご登壇いただき、保健医療費統計についての現状及び将来の課題について講演および議論を実施いただきました。

夕方に開催された総会の中では表彰も行われました。今堀 まゆみ氏(早稲田大学大学院 経済学研究科博士後期課程)の「所得が高齢者の医療・介護費に与える影響」が2019年度 学会論文賞を受賞しました。また後日、本研究大会 若手最優秀発表賞の選考が実施され、橋本 明弓氏(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻)の「Technical efficiency and the related factors of prefectures' policy on child injury in Japan」が受賞しました。

最後になりますが、例年とは異なるオンライン開催という開催形式にも関わらず、ご参加頂き、活発にご討議頂き、盛会に導いて下さいました皆様方に、深く御礼申し上げます。次の第16回 研究大会は、伏見 清秀氏(東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 教授)を大会長として、2021年9月4日(土)に東京医科歯科大学において開催されます。再び多くの皆様のご参集を賜れますよう、願っております。

(医療経済学会 事務局)

